



31



32

【D特別部門SDA賞】（D特別部門の部）

31-36 芹沢銈介

住所＝東京都大田区西蒲田4-20-15

「くらしき」「ざくろ」や型絵染のれん及び大原美術館の「染色館」を中心とするサイン及びサイン建築は、民芸的世界の美の総体をサインの上に創出した。その積年の業績に対して。

〔Special SDA Prize for Special Department
Mr. Keisuke Serizawa〕

35

坂野 長美

独自の型染め技法で人間国宝、また文化功労者の〈染色作家〉として知られているが、これは芹沢銈介氏の足跡の大きさと幅広さに対しては、いささか便宜的なレッテルにすぎないのが疑問である。氏自身は〈染工〉と称しているそうで、この名匠の心意気に打たれる思いはするけれど、例のパリ＝グラン・パレ展いらい、今や美術と工芸の垣も生活様式の違いも超えた、世界の〈装飾芸術家〉で鳴らしていることは周知のとおり。そんな氏を、韓国系の文化人類学者で、最近は“民学の会”の組織などでも活躍している金両基氏は、次のように称えている。「民芸的世界の美の総体を創造しようとする、脱領域の美の作家」(文春デラックス53.3＝芹沢銈介の世界)

民芸とは、“民衆的工芸”の略だといわれている。かつて下手物と蔑まれてきた雑器の美が、柳宗悦らに見出され民芸運動が興されて半世紀。戦後のブームで「民芸は物も言葉も墮落した」(柳宗理・日本民芸館3代館長)といわれるような状況はともかくとして、これを日本内発の思想による近代デザイン運動の一先駆ととらえ直すとき、こういうことも言えるのではないかと思う。――民芸運動におけるヴィジュアル・コミュニケーションの領域を、生活工芸から印刷・スペース媒体までトータルに開拓した、その言葉本来の意味での〈デザイナー〉――と。より厳密にはデザイナー・クラフトマンといわなくてはならないが。氏がもともとは画家志望で生家没落のため断念、蔵前の東京高等工業(東京工大の前身)に進み、印刷图案専攻からスタートしたという経歴も、興味深く思い合わされる。

その氏をこんどは、〈サイン・デザイナー〉として顕彰させていただく運びとなった。上記の視点からいって、氏がこの道でも大先達としての足跡を多面的に残されているのは、また一つの必然でもある。まず直接的には、いわゆる“看板”のジャンルでの名作・秀作サインの数々。これは実作例は比較的少いにしても、プロトタイプを創造したことで影響力は大きく、日本今日のサインを語る上で見逃すことのできない位置を占めている。

たとえば、本年鑑72年版の特別部門賞特集記事でもすでにお馴染みの、倉敷の老舗旅館〈くらしき〉に見る道標型行灯サイン。名店〈ざくろ〉をはじめとする一連の、民芸系料理店のサインなど。前者は日本的伝統のサイン文化を民芸の美学に結び、商業サインの域を超えてこの町の一象徴にも昇華させたたたずまいで、これ

からの商業サインのあり方を探る上での、文字どおり“道しるべ”とも見えてくる。後者の系列には、〈美濃吉×竹葉亭×八雲×すずや〉などがあり、各店ごとにヴァリエティに富む様式美が楽しめる。また店舗関係では今というC.I.が、しかしスタンダライゼーションのシステム思考ではなく、工芸の特性である多様性を生かしたデザイン・ポリシーとして、氏自身により一貫されているのも特筆できる。そこでは個の多様性と全体的調和の両立という、S D Aの唱える集合サイン理念も、すでに独自に先取りされているようでもある。先取りといえやはり倉敷の、大原美術館工芸館の赤い倉〈染色館〉。これは氏の目と手が建築の外観デザインまで及んだ一例だが、登場後数年で例のスーパー・グラフィック・ブームが起きた時には、まさにそのみごとな先取りの観があった。ブーム去った今もなお、意味と文化の深みに根ざして色褪せぬその姿は、時の流れにたえうるサイン建築の一指標として、改めて目に焼きつけられるようである。

次に十八番の〈のれん〉がある。日本の伝統サインのなかでも大きい流れを形づくるこののれんに、自由な発想と手わざの冴えて、また新しい生命を吹きこんできたのが芹沢のれんである。さらにサインのもっとも基本的な要素である文字では、同じく型染め技法による独特の書体の創造があげられる。氏とはほぼ同世代のグラフィック界の長老・原弘氏は、これを「型を剪ることから生まれる必要性をもった、独創的な書体」と見、〈芹沢体〉と呼んで、この「型による日本文字の新書体創造」は、「芹沢さんの日本のデザイン界への大きな貢献」と評価している。(グラフィック・デザイン68／芹沢銈介の染色デザイン)

最後にわれわれとしても心強いのが、氏のサインに寄せられる広く深い関心である。実は昨年、以上に要約したような主旨の芹沢論をものさせていただいたことがある(Sign in Japan 9/SIGN DESIGN人と作品・芹沢銈介氏)のだが、そのとき一つだけ抜かりがある、というご指摘を次のように伝え聞いた。「装幀もサインじゃないのか？」まさにそのとおり。サインの持つ境界領域性からも隣接分野との接点には、たえず目を配っているつもりでいて、純グラフィック分野のそこまでは、とつい棚上げしていた視野の狭さを反省させられたものである。今度の特別部門賞も、「サイン・デザイナーとして評価されることは嬉しい。世界が広がるようで」と、望外にお喜びいただけたことを付記しておく。

●芹沢銈介・略年譜

1895年 (明28) 5月13日、静岡市出生。生家・大石家。中学時代、家産傾く。

1916年 (大5) 東京高等工業学校图案科卒業。

1917年 郷里の素封家・芹沢家に養子縁組。友人と图案社を始め、次いで県立静岡工業試験所图案課長に。地場産業の各種工芸の图案指導に当る。

1921年 大阪府商工奨励館の懸賞ポスター入賞。招かれて同館图案課勤務。

1923年 辞職・帰郷。山野の写生行、手芸グループの主宰など模索の時代。山本鼎提唱の農民美術運動に惹かれる。

1925年 京城の朝鮮民族美術館(柳宗悦設立)訪。往路の船中で、〈大調和〉誌掲載の宗悦論文〈工芸の道〉に触れ、「天啓を受けた」ように感動、生涯の一転機となる。

1926年 (大15～昭1) 柳宗悦ら〈日本民芸館設立趣意書〉発表・運動発足。芹沢家に宗悦初来訪。収集の小絵馬に「同志誕生」と喜び、以後交流深まる。

1928年 大正記念博覧会・日本民芸館出品の沖縄紅型に注目。「我が家に帰るように」型染めの道に入る。

1931年 雑誌〈工芸〉創刊。型染め表紙を1年間受持つ。装幀の仕事の端緒。

1932年 国画家々員に推される。

1934年 東京移住。大正末期、芹沢家は親戚連判のため破産。窮乏生活だったが知人の厚意で現住地・蒲田に工房を構え、初めて仕事場に恵まると喜ぶ。

1936年 (昭11) 日本民芸館開館。サイン・家具など制作協力。宗悦・浜田庄司らとともに

に国画家脱会。

1937年 〈絵本どんきぼうて〉完成。以後、染絵本の仕事増える。

1938年 宗悦ら民芸同人とともに沖縄へ。那覇で紅型技術の伝受、写生行に励む。

1939年 大阪阪急百貨店で第1回個展を開く。

1941年 太平洋戦争動発。大冊型絵本〈法然上人絵伝〉完成。

1945年 (昭20) 終戦。4月の戦災のため工房と全家財を失う。10月、一時寄寓中の荒涼たる日本民芸館で、「しきりに美しきものへの思念燃ゆ」

1947年 宗悦・浜田庄司・河井寛次郎らとともに国展工芸部再建。

1955年 東京大丸で開催の〈日本民芸館展〉で、〈河井・浜田・芹沢三人展〉も併催。

1956年 (昭31) 重要無形文化財保持者に指定。

1958年 大原美術館工芸館建設。倉庫群の配置換え、内外装・展示用家具の設計。

1961年 柳宗悦逝去。「悲痛深甚」祭壇デザインを手がける。〈民芸〉4月号、芹沢銈介染絵の特集。

1963年 大原美術館工芸館・棟方・芹沢(染色館)両館完成。

1966年 (昭41) 紫授褒章授章。訪欧。バルセロナ・カタルーニャ美術館など。

1967年 〈自選芹沢銈介作品集〉上巻・作品集〈型絵染〉出版。

1968年 新皇居連翠の間の横額2面謹作。〈自選芹沢銈介作品集〉下巻出版。訪米・サンディアゴ州立大夏期セミナーに招かれ、同地およびロサンゼルス、バンクーバーなどで個展。

1976年 (昭51) 文化功労者。パリ、グラン・パレ美術館で〈芹沢銈介展〉開催。



33

〈写真解説〉

31. 〈ざくろ〉室町店・地階店頭サイン
32. 倉敷・大原美術館工芸館〈染色館〉
33. 倉敷・旅館〈くらしき〉のサイン／大原家十浦辺建築事務所による、民家再生方式の商業施設適用第1号・1956年
35. - 36. 芹沢のれんの代表例(新宿・すず

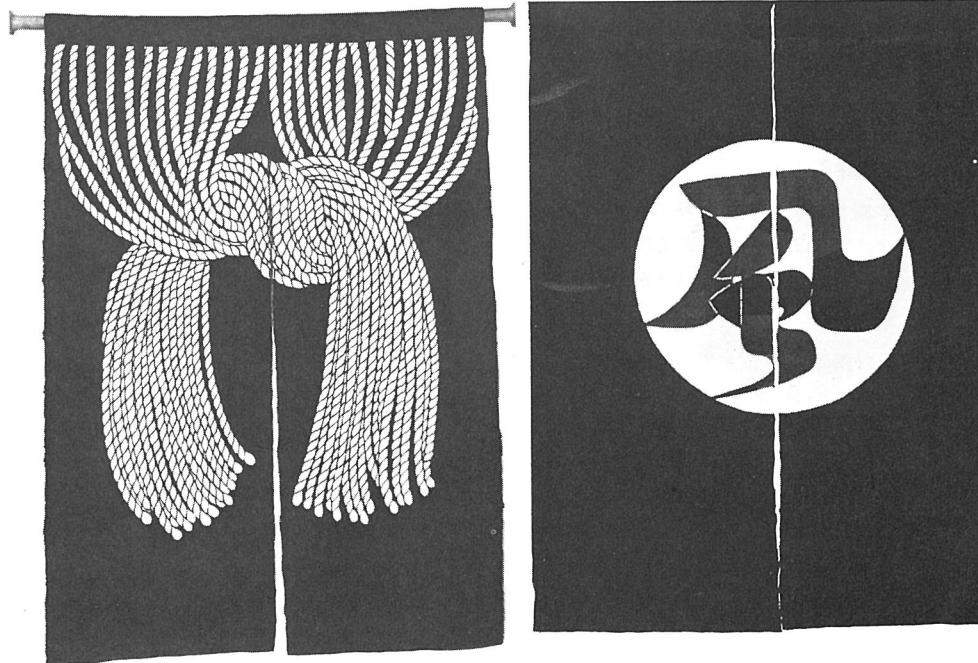
や提供)

〈縄のれん文のれん〉1955年・紺のれんに重なる縄のれんの二重像。スーパー・グラフィズムにも通じる、視覚的トリック性

〈風の字のれん〉1957年・パリ展ポスターには、この風の字が先方により選ばれた



34



35

36

B4. アイデンティティ・シンボル

SDA賞 サミットストア(各地) ①五十嵐威暢 ②五十嵐威暢デザイン事務所 ④(株)サミットストア

B5. その他

B5部門
最優秀SDA賞 西武百貨店船橋店シャッター(船橋市) ①福田繁雄 ②加藤裕明, 馬場周一 ④(株)西武百貨店 ⑥(株)ヤマヤ
旭印刷(福岡県) ②葉祥栄 ④(株)旭印刷 ⑥(株)ケンラン社
SDA賞 広島洋紙(広島) ①②③⑤⑥ (株)みずま工房 ④広島洋紙(株)

C1. サインシステム

C1部門
最優秀SDA賞 C B S ソニー(東京) ①②山田昌樹 ③(株)竹中工務店 ④(株)C B S ソニー ⑤館内案内サイン: 増田産業(株), 館名表示
サイン: (株)昭和ネオン工業所
SDA賞 八重洲ブックセンター(東京) ①内堀繁夫 ②杉浦康平, 渡辺清和, 臼井憲二 ③押野見英邦 ④八重洲ブックセンター ⑤(株)鹿
島建設, (株)甲子看板工業所, (株)アオキメタルファクトリー ⑦山本東陽
" なんばシティ(大阪) ①田中一光, 魚成祥一郎 ②杉本貴志, 久保茂, 藤本章二郎, 井後雅紀, 三瓶邦夫 ③上田実弘
" 加嶋政男 ④南海電気鉄道(株) ⑤(株)電通大阪支社 ⑥(株)乃村工芸社商業施設開発事業部
" 銀座松屋リニューアル計画(東京) ①魚成祥一郎, 朝永徹一, 小池広光, 松川澄雄 ②柳川敏行, 高宮邦彦 ③熊木道夫 ④(株)松屋
" ⑥(株)乃村工芸社 ⑦内藤宏
" 西友ひばりヶ丘店(東京都) ①田中一光 ②太田徹也, 田中一光, 坪内祝義 ④(株)西友ストア ⑥小林工芸社 (株)昭和ネオン工業所
" 東急ハンズ(東京) ①益永明 ②八木保, 宮城壮太郎 ③東急設計コンサルタント ④(株)東急ハンズ ⑥(株)丹青社
" 銀座シグナス(東京) ①(株)竹中工務店 ②(株)竹中工務店, 鐘紡繊維販売(株)ファッション研究所 ③(株)竹中工務店 ④(株)
" カネボウファッションセンター ⑥(株)竹中工務店
" M Y C I T Y(東京) ①竹林榮平, 細江真理生 ②池上典, 齊藤明男, 松永真, 井原理安 ③齊藤明男, 鉄道会館設
" 計事務所 ④(株)新宿ステーションビルディング ⑥(株)丹青社, (株)甲子看板工業所
" 新宿野村ビル(東京) ①石川哲也 ②竹中一晃, 福永信治 山形明 ③安井建築設計事務所, 齊藤明男 ④野村不動産(株)
" ⑤安井建築設計事務所 ⑥(株)丹青社
" 西武百貨店船橋店(船橋市) ①福田繁雄 ②加藤裕明, 馬場周一 ④(株)西武百貨店 ⑥(株)ヤマヤ
" 西武百貨店藤沢店(藤沢市) ①田中一光 ②伊東和也, 杉本貴志, 山城隆一, 田中一光 ④(株)西友ストア ⑥小林工芸社, (株)ウラネオン
" 長野国際会館(長野市) ①赤瀬達三 ②(株)黎イングストリアル・デザイン事務所 ③天野・吉原設計事務所 ④(株)長野国
" 際会館 ⑥ゴールド(株), (株)アンプル広告社
" 釜飯, 新浜作(松山市) ①②③寒川登 ④浜作 ⑥寒川商業建築研究所松山支社, (株)ヤマギワ電気
" ときわ食堂(宇和島市) ①②③寒川登 ④ときわ食堂 ⑥寒川商業建築研究所松山支社
" 郡山ビューホテル(郡山市) ①押田信次 ②三上久直 ④日本ビューホテル(株) ⑥(株)甲子看板工業所
" 都住創・大手通表示板(大阪) ①②中尾よしもり ③阪神彫刻 ④都住創 ⑥中尾デザインルーム
" 岩井町セブン表示板(大阪) ①②中尾よしもり ③阪神彫刻 ④都住創 ⑥中尾デザインルーム
" 塚口さんさんタウン(兵庫・塚口) ①松井理夫 ②伊東和也, 辻本達広, 北山廣司 ③(株)赤松店舗研究所, 日本サイン(株) ④尼崎市
" ⑥日本サイン(株)
" 異人館クラブ(神戸) ①天藤建築設計事務所 ②③⑥(株)乃村工芸社 ④(株)ベアーズ
" 清和台センターモール(兵庫・川西) ①③⑥(株)竹中工務店 ②渋谷章, 中馬宗武 ④進和不動産(株)
" セントラルパーク(名古屋) ①左右田論 ②木村利之 ③大成建設(株)名古屋支店 ④(株)セントラルパーク ⑤(株)南北社名古屋
" 支店 ⑥(株)アイセイ社
" 富士銀行(各地) ①②③K G イングストリアルデザイン事務所環境デザイン本部 ②(株)コミュニケーションエンジ
" ニアーズ ④(株)富士銀行 ⑥(株)エキスプレス社, (株)びこう社
" 山口県立美術館(山口) ①山口県建築課 ②佐野健久 ③鬼頭梓建築設計事務所 ④山口県建築課 ⑤鹿島建設(株)広島
" 支店 ⑥広島クロード(株)

C2. 集合サイン

SDA大賞 ハナエ・モリ・ビル(東京) ①田中一光 ②田中一光, ロバート・カーリー ③丹下健三, (株)大林組東京本社一級建築事務所
④HANAE MORI ⑥(株)大林組, (株)総合デザイン ⑨伊藤隆道
SDA賞 イセザキモール(横浜) ①②⑥(株)竹中工務店 ③永原浄, 乃村工芸社 ④伊勢佐木町1・2丁目地区商店街振興組合
" サンシャインシティ(東京) ①サンシャインシティータータルデザイン委員会, GKイングストリアルデザイン研究所 ②③⑥西武百貨
" 店家具装飾部, バルコ, 三越装飾部, メックデザインインターナショナル ④新都市開発センター ⑤三菱地所(株)

D 特別部門

SDA賞 芹沢銈介